

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.351

2023.03/13 (月曜) 15:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

1778 続報 PBF 3/13現在継続出現中 対応地震 6月以降発生の可能性 PBF変動・特異変動の完全終息を観測し、発生時期推定予定

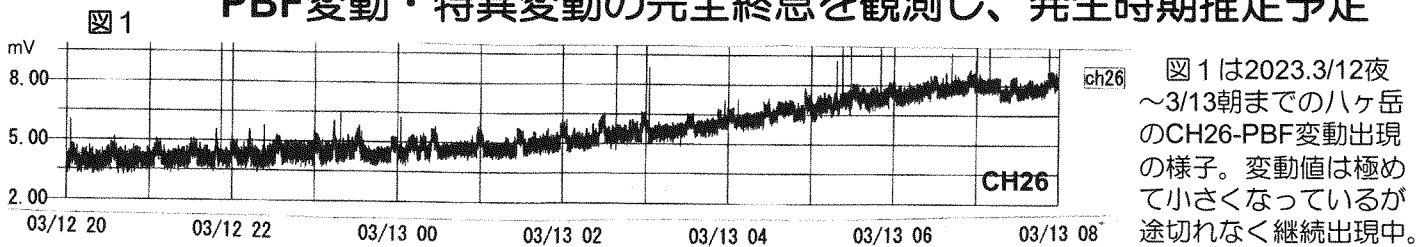


図1は2023.3/12夜～3/13朝までの八ヶ岳のCH26-PBF変動出現の様子。変動値は極めて小さくなっているが途切れなく継続出現中。

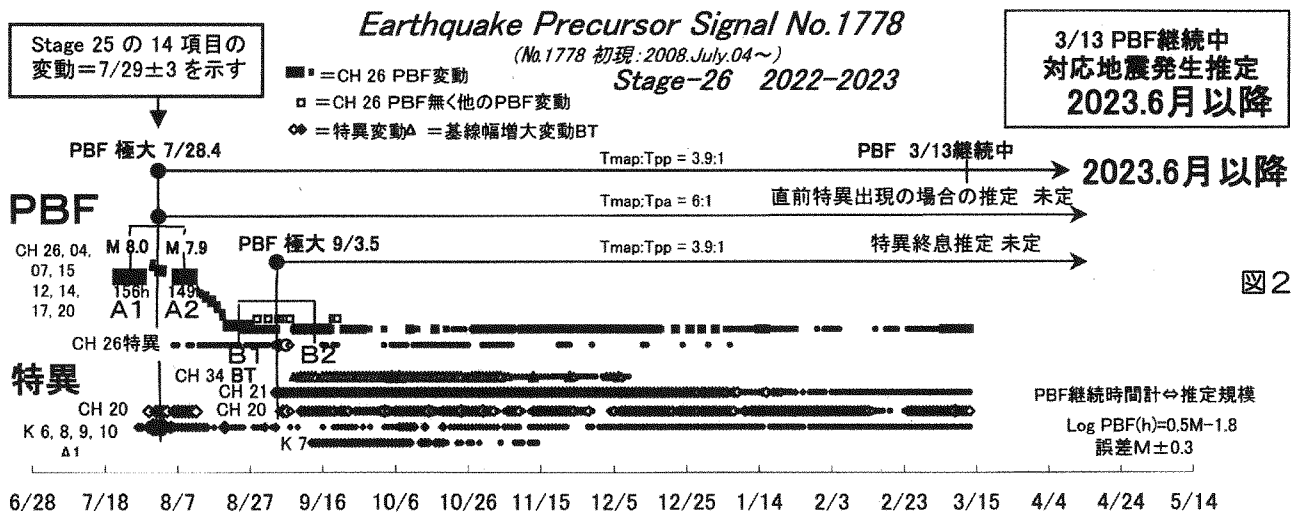
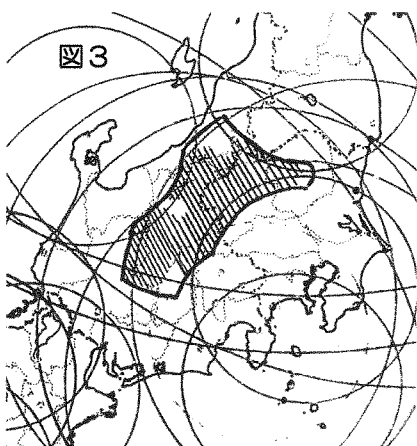


図2

前続報No.350では、2/17にCH26のPBF変動が終息の可能性と仮定し、04月末時期発生の可能性を考えました。しかし、PBFも特異変動も継続出現し、2023.3/13現在、まだPBF変動は継続出現していることから、対応地震発生時期は少なくとも5/31以降となることが計算されます。本日午後段階でも全く終息する傾向も認められないことから、恐らく、発生時期は6月以降となると思われます。終息時期について幾つかの可能性を考えましたが、いずれも過去例・過去経験則がなく、根拠がなく無効でした。当該長期継続地震前兆変動の初現は、2008年07/04で、本年07月初旬で丸15年という過去最長継続となります。



- 推定領域：図3太線内領域
斜線域＝火山近傍参考推定域
- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定時期：
2023.6月以降 まだ未定
PBF変動・特異変動終息確認で
発生時期推定予定
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3
または 午後6時±3

本観測法での地震前兆変動期間（地震発生までの期間）は、プレート境界型では主に数日。内陸の地殻地震では、早い場合は数日ですが、地殻地震では新潟中越が約8ヶ月、岩手内陸地震では3年3ヶ月と長い観測例があります。このような前兆期間の違いは、震源領域にかかる力（歪み速度）の違いによるものである可能性が強く示唆されます。当該長期継続前兆変動がいつ終息するか、とにかくPBF変動の完全終息を待って、発生時期を推定したいと考えます。現状、5月末以前に発生する可能性は否定できません。